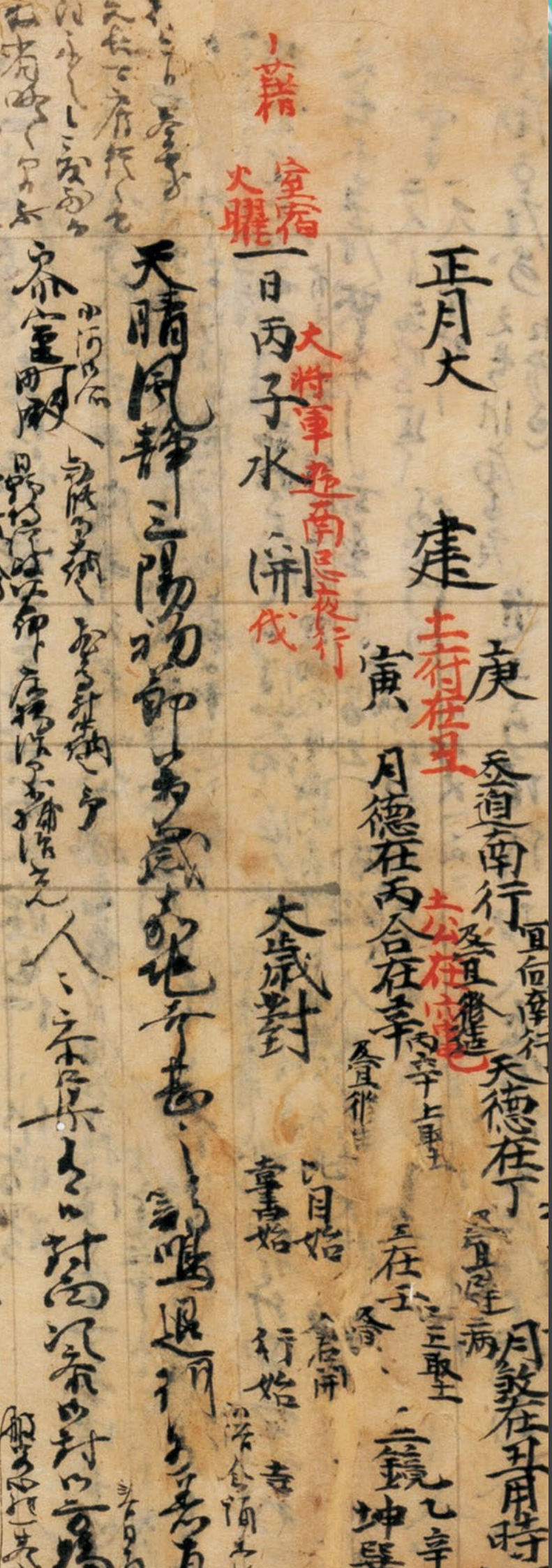


公家・武家・下級官僚・僧侶・医者が残した中世の自筆日記を体感する

【高精細カラー版】

鎌倉室町古記録

尊経閣善本影印集成　第九輯　全十冊

完結！

●所収書目　全11点

公家
- 実躬卿記　自筆　聚文
- 宣陽門院御落飾記　孤本
- 後愚昧記　山門嗷訴記・実豊卿記　自筆
- 公秀公記　自筆
- 実隆公記　自筆

下級官僚
- 外記日記　新抄　孤本
- 享禄二年外記日記　自筆

武家
- 建治三年記　自筆　聚文

僧侶
- 碧山日録　孤本
- 蔗軒日録　孤本

医者
- 盲聾記　自筆

前田育徳会尊経閣文庫 編

【編集委員】尾上陽介・加藤友康

八木書店　内容見本

◎実躬卿記　鎌倉時代後期〈自筆〉

日記本文

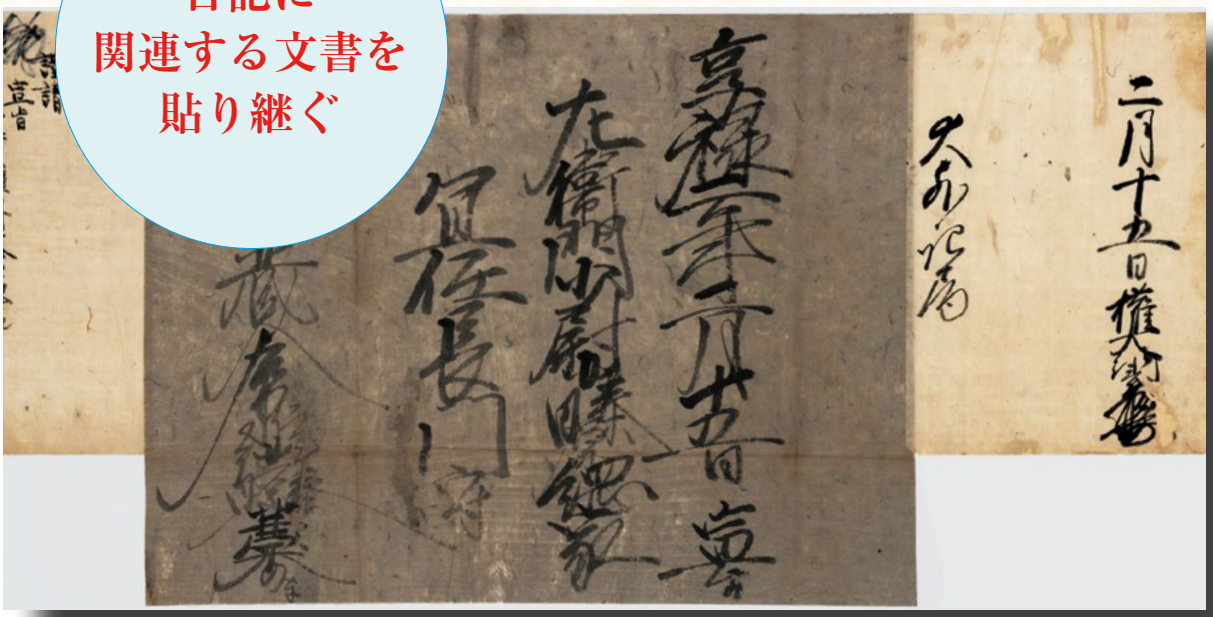
上から仮名暦・具注暦・文書・歌合

反故を裏返して日記を書く

本をする

日記はさまざまな反故を再利用して書かれています。実躬卿記では仮名暦・具注暦・文書・歌合などの反故を裏返して日記が書かれました。これらの反故は通常ならば残らなかったもので、きわめて貴重です。

◎享禄二年外記日記　室町時代後期〈自筆〉



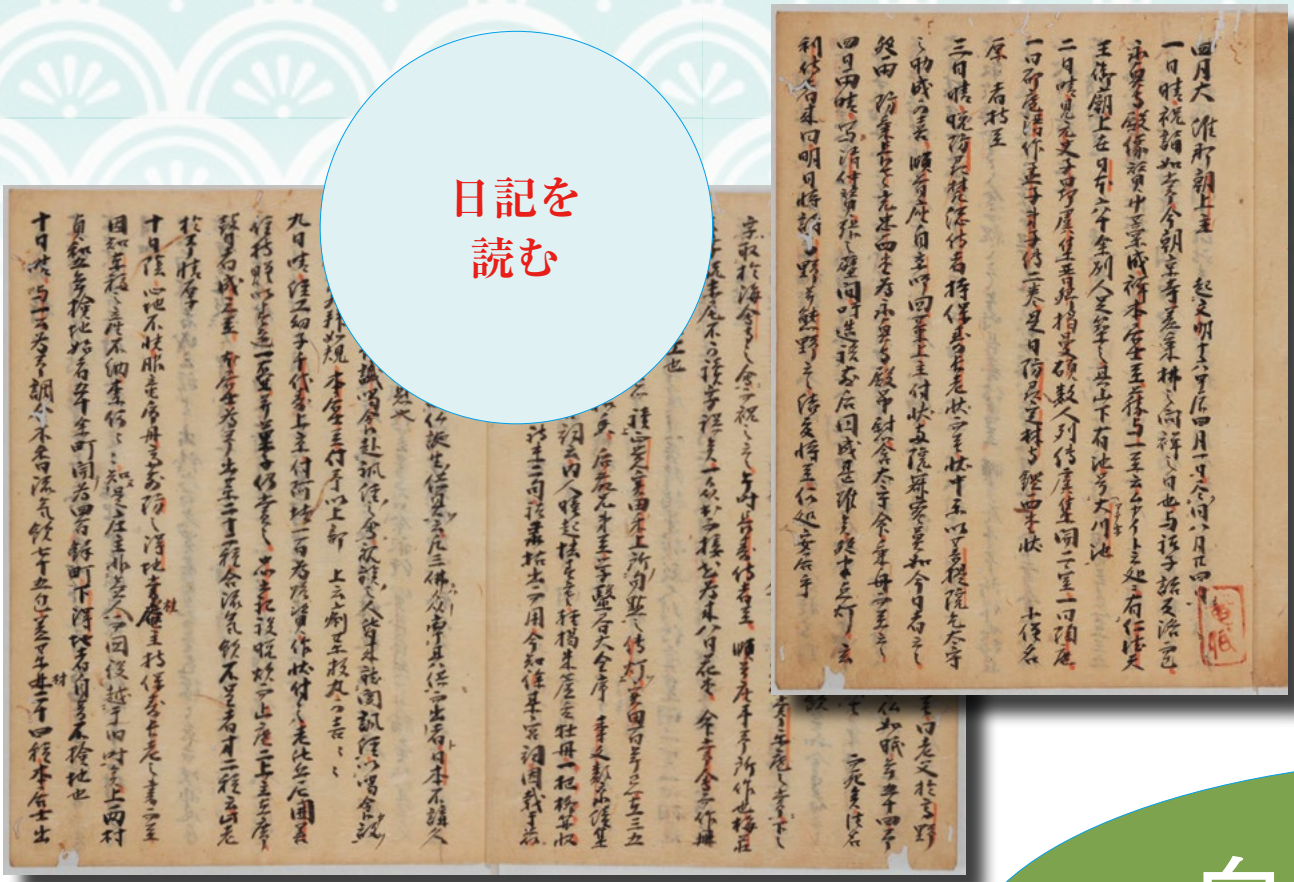
日記に関連する文書を貼り継ぐ

享禄２年（1529）２月 15 日条には当日の記事に関連する文書がスクラップされています。縦の寸法が日記の料紙より大きいため、わざわざ下部を折りたたんで貼り継いでいます。

自筆原体感

◎蔗軒日録　室町時代中期（慶長元和年間写）

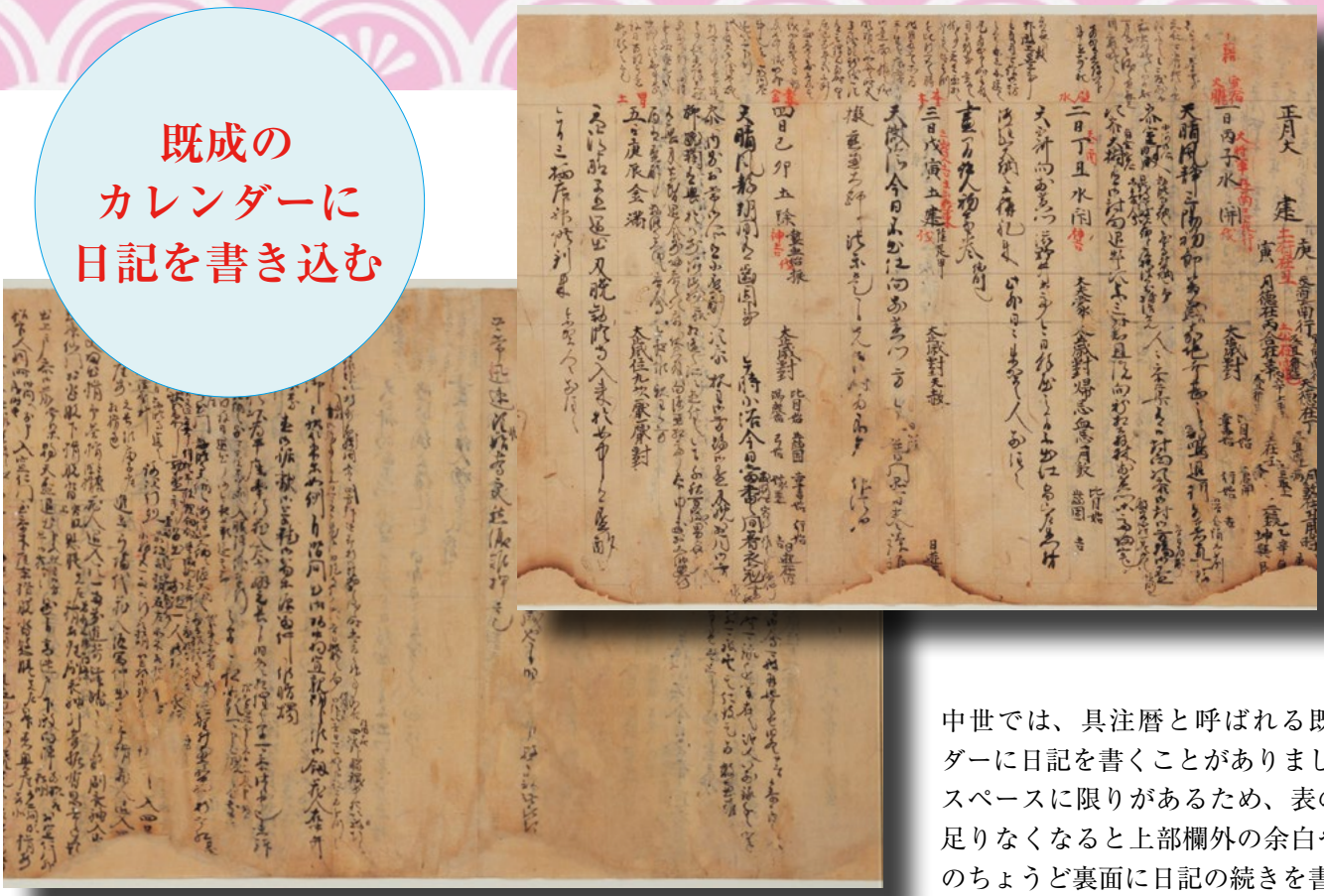
日記を読む



朱墨で固有名詞に線を引いたり、句点や返り点を施しており、日記を読み込んでいる様子がわかります。

◎実隆公記　室町時代中期〈自筆〉

既成のカレンダーに日記を書き込む



中世では、具注暦と呼ばれる既成のカレンダーに日記を書くことがありました。
スペースに限りがあるため、表のスペースで足りなくなると上部欄外の余白や裏返した行のちょうど裏面に日記の続きを書きました。

刊行の辞

前田育徳会尊経閣文庫理事長　石田寛人

前田育徳会尊経閣文庫は、大正十五年（一九二六）二月二十六日に、前田家第十六代御当主であった前田利為侯が設立した公益財団法人です。利為侯は大正十二年の関東大震災により多くの文化財が焼失したことを目の当たりにして、前田家が所蔵する貴重な文化財を後世に確実に伝えることを意図して財団を創設しました。

当初財団の目的は、加賀前田家に伝来する貴重な古典籍を原装複製して研究機関等に広く無償頒布することにありました。その一環として『尊経閣叢刊』が刊行され、その数は大正十五年六月の『古語拾遺』から昭和二十七年七月の『建治三年記』まで六十四点に及び、現在でも国文学・歴史学などの研究資料として広く活用されています。

この間財団は前田家より所蔵文化財の寄贈を受け、その保存管理が主要な事業になりましたが、平成に入って『尊経閣叢刊』を引き継ぐ複製刊行事業が企画され、八木書店の御協力を得て、『尊経閣善本影印集成』の編纂刊行が開始されました。平成五年（一九九三）十二月の第一輯第一冊『西宮記』の刊行以来、専門研究者の御尽力を賜りながら、全八輯計六十六冊が刊行されています。

このたび、『尊経閣善本影印集成』第九輯として、重要文化財『実躬卿記』など、財団が所蔵する中世の古記録を十冊に編成し、高精細カラー版で影印刊行することになりました。第八輯の平安時代から一つ時代が下った鎌倉・室町時代の公家・武家・寺院などの貴重な古記録を、前回同様オールカラー版で御覧いただければと存じます。

最後に、第八輯に引き続き第九輯の編集委員をお引き受け下さった加藤友康先生・尾上陽介先生、解説執筆を御快諾下さった尾上先生を始め諸先生方、『尊経閣善本影印集成』刊行の継続に御理解・御協力下さった八木書店に感謝いたします。

実躬卿記

尊経閣文庫について

「尊経閣文庫」は正式には公益財団法人前田育徳会の通称である。前田育徳会の前身である育徳財団は、大正十五年（一九二六）二月二十六日、加賀前田家第十六代当主前田利為により設立された。「尊経閣文庫」は、収蔵品の中核ともいうべき第五代当主前田綱紀の蔵書名「尊経閣蔵書」に因んで名付けられたとされる。文庫が収蔵・管理する文化財は、大別して美術工芸品・典籍文書類・建造物から成り、そのうち国指定文化財は、国宝二十二件・重要文化財七十七件を数え、わが国の特殊図書館（古典文庫）の中では質量ともに群を抜いている。架蔵する典籍文書類は、国書約七千五百部、漢籍約四千百部、文書約二千五百点を数え、一定条件のもとで研究者の閲覧に供している。

第九輯　鎌倉室町古記録

―多彩な中世の日記を読む―

東京大学史料編纂所教授　尾上陽介

中世の古記録　古記録は貴族らが備忘のために自分が経験・見聞した出来事を筆録した日記で、平安時代以降、子孫に故実を伝承することを目的に数多く書き残された。公家社会では先例を参照して政務を行うため日記は必要不可欠のものであり、中世には家毎に代々の当主や一門・家司などの日記を集積した「家記」が形成され、関連文書なども併せて総合的な記録が作成されるようになる。そこには時々の政情や記主（筆者）周辺の動静が生々しく記されており、当時の社会を知るための基礎史料となっている。

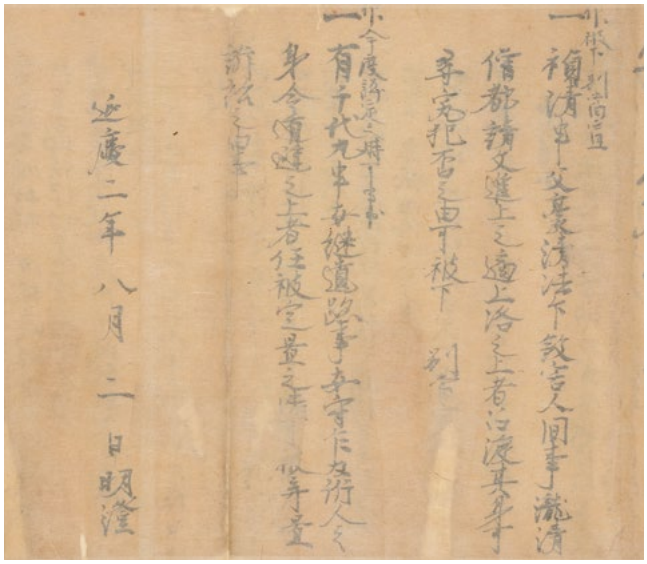
多様な記主　第八輯平安古記録に収めた右大臣藤原実資の『小右記』、左大臣源俊房の『水左記』、左大臣藤原頼長の『台記』は、いずれも朝廷の最上級貴族の手になるものであった。藤原道長の『御堂関白記』をはじめ、これらの平安時代を代表する日記の記主は、そのほとんどが皇族や廷臣に限られていた。ところが中世になると、それまでの公家に限らず、武家や僧侶、医師など、さまざまな人々が筆録した日記が残されるようになる。前田育徳会尊経閣文庫には中世の多様な記主の日記が数多く収蔵されており、第九輯鎌倉室町古記録には、以下に示すようにさまざまな記主の日記のなかから、原本やそれに匹敵する古写本を厳選して収めた。

廷臣の日記　『実躬卿記』・『公秀公記』は、権大納言藤原（正親町三条）実躬と、その息男の内大臣公秀の日記原本で、数少ない鎌倉後期のまとまった記録である。『実躬卿記』と一緒に伝来した『宣陽門院御落飾記』は、鎌倉時代前期の政治史上重要な女院に関する史料の写本である。また、『山門嗷訴記』・『実豊卿記』は内大臣三条公忠の日記『後愚昧記』の原本の一部、『実隆公記』も同じく内大臣三条西実隆の日記原本の一部で、共に南北朝室町時代の基本史料である。このほか、『外記日記 新抄』・『享禄二年外記日記』はそれぞれ鎌倉中期と室町後期に朝廷の事務官として活躍した外記の家の日記の古写本及び原本で、文書行政の実務に携わる立場の人物が筆録した記録として価値が高い。

武家・僧侶・医師の日記　『建治三年記』は鎌倉幕府問注所執事であった太田康有が自らの日記から抄出した記録の原本で、代々問注所執事を務めた太田（三善）家の「家記」に相当する公務日記といえる。また、『碧山日録』・『蔗軒日録』は共に室町時代禅僧の日記で、尊経閣文庫本は唯一の古写本であり、『盲聾記』は室町後期の医師の日記原本である。これら武家・僧侶・医師の日記は、廷臣と比べて伝来するものが圧倒的に少ない上、記事には他の記録からうかがえない独特の内容が多く、極めて貴重な存在である。

高精細カラー版の意義　第八輯に引き続き第九輯も高精細カラー版により刊行される。影印本刊行の意義が大きいことは言うまでもないが、特に高精細のカラー図版が印刷され安定的に提供されることで、墨色の微妙な違いを容易に把握でき、原本の文字の筆路や、重ね書き・塗抹・補書、朱書や破損箇所などについて細かな情報を読み取ることができる。日記は個人の記録であるため個性的な書風や様式で筆録されているが、これらの活字本や白黒版影印では得られない情報から記主の筆録態度や本文推敲の痕跡を踏まえることで、より正確に記事の内容を読解し、新たな解釈を導くことができる。また、例えば『外記日記 新抄』には豊富な紙背文書が存在するが、裏打ちのためこれまで判読が困難であった。今回の高精細カラー版では、裏打ちを通して料紙や墨の微妙な色調を読み取ることが可能となり、新たな知見も得られよう。

今回の多様な古記録の高精細カラー版の刊行で、中世史・中世古記録研究のさらなる進展が期待される。



外記日記 新抄　紙背文書

碧山日録

◆文書・暦・歌合など、様々な紙背を利用して書かれた自筆日記

【第67冊～第70冊】

実躬卿記

鎌倉時代後期・二十三巻

〔所収〕弘安十年～徳治二年（一二八七～一三〇七）

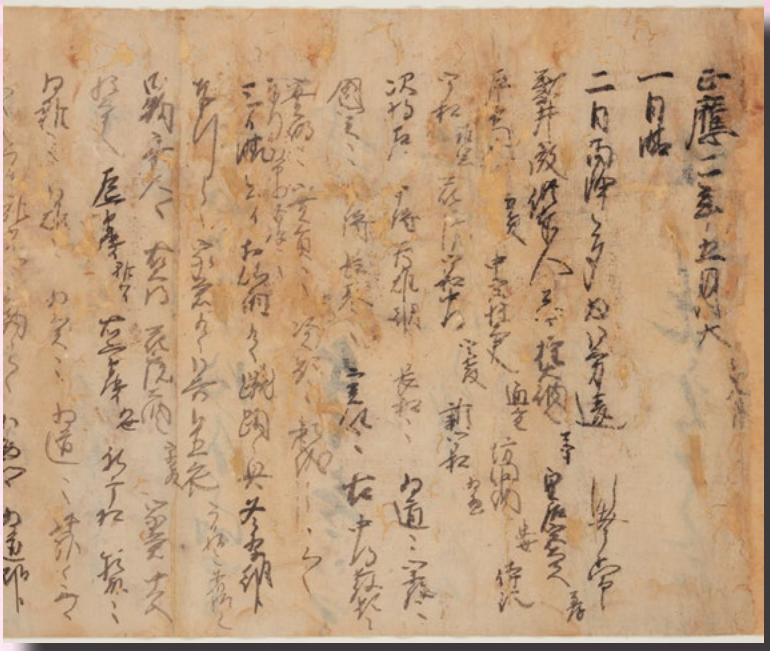
〔解説〕菊地大樹（東京大学史料編纂所）

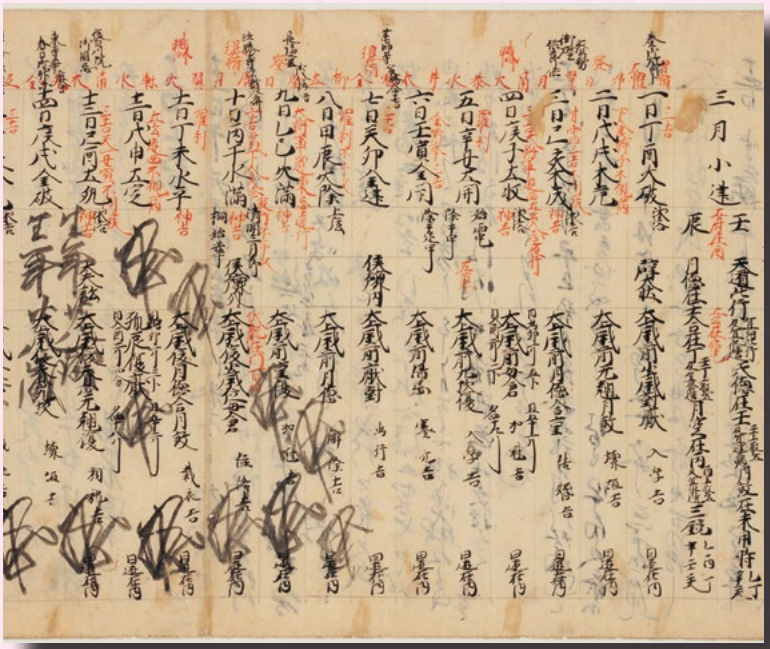
重文

自筆原本

鎌倉時代後期の公家、権大納言藤原（正親町三条）実躬（一二六四～？）の日記。弘安六年正月～延慶元年（一二八三～一三〇八）正月までの自筆日記が現存する。亀山・後深草・後宇多院等による院政の時期に、廷臣として活躍する実躬の行動が記述されている重要史料である。紙背にも文書・具注暦・仮名暦・歌合など多彩な記述を含む。

尊経閣本は弘安十年～徳治二年（一二八七～一三〇七）までの自筆原本で、重要文化財に指定される。大日本古記録『実躬卿記』にて翻刻され、尊経閣本はその底本である。





◆鎌倉時代前期の女院を知る

【第70冊】

宣陽門院御落飾記

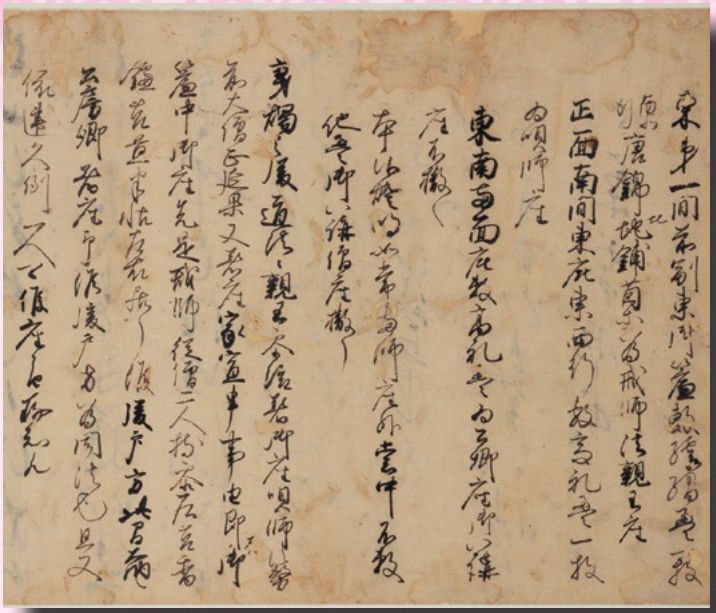
鎌倉時代前期（同後期写）・一巻

〔所収〕元久二年（一二〇五）

〔解説〕菊地大樹

唯一の古写本

記主は日野資実（一一六二～一二二三）と思われる。尊経閣本は現在知られる限り唯一の古写本であり、元久二年（一二〇五）三月・四月が現存する。内容は三月の宣陽門院（後白河天皇皇女、覲子内親王）の出家と、関連する仏事の記事である。宣陽門院母は丹後局こと高階栄子、後白河院寵妃でその没後も権勢をふるった人物で、この日記にも「二品比丘尼」として登場する。近年当該期の政治史研究において注目される女院の史料として貴重である。



◆南北朝時代の政治動向を知る

【第70冊】

後愚昧記　山門嗷訴記・実豊卿記

●山門嗷訴記　南北朝時代・一巻
〔所収〕応安元年（一三六八）

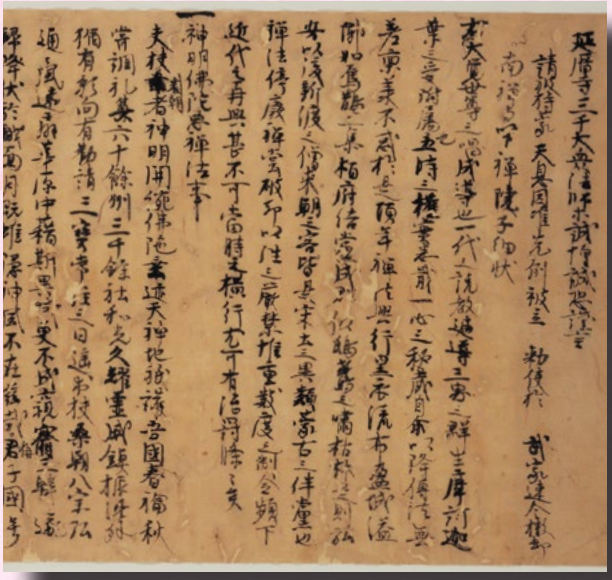
●実豊卿記　南北朝時代・一巻
〔所収〕応安六年（一三七三）

〔解説〕尾上陽介（東京大学史料編纂所）

原本自筆　原本自筆

『山門嗷訴記』『実豊卿記』は、ともに北朝の延臣、前右大臣三条公忠（一三二四～八三）の日記『後愚昧記』の一部である。『後愚昧記』は康安元年～永徳三年（一三六一～八三）までが現存し、室町時代前期の政治動向を知る上で必須の史料である。

尊経閣文庫本の『山門嗷訴記』は応安元年（一三六八）七月～十二月を所収し、『実豊卿記』は応安六年（一三七三）八月記の全部と九月二日条のみの残欠を収録。ともに自筆原本であり、大日本古記録『後愚昧記』に翻刻される。



◆実躬の子が記した鎌倉時代後期の記録

【第71冊】

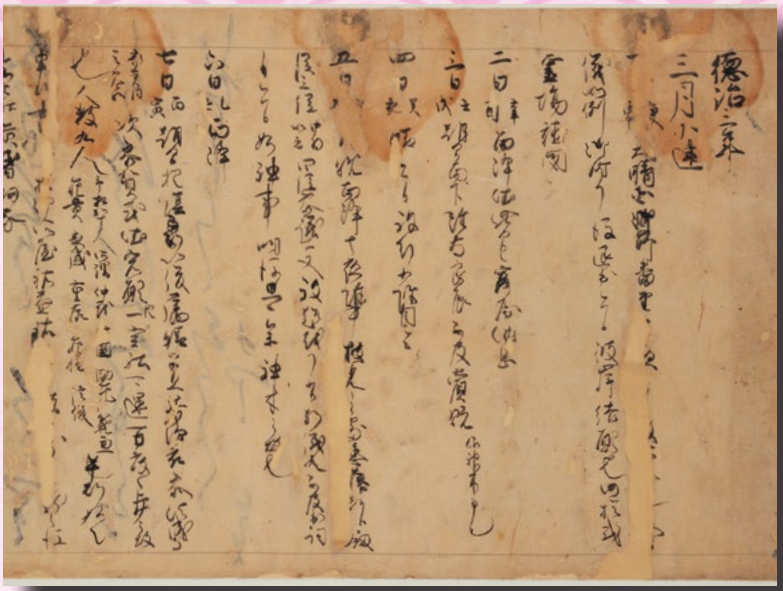
公秀公記

鎌倉時代後期・三巻
〔所収〕延慶元年（徳治三年、一三〇八）
〔解説〕尾上陽介

原本自筆

権大納言藤原（正親町三条）実躬の子、内大臣公秀（一二八五～一三六三）の日記。永仁六年（一二九八）～貞和元年（一三四五）までの記事が断続的に伝わる。記録の少ない鎌倉時代後期において、比較的まとまったものとして貴重である。

尊経閣本は延慶元年（徳治三年、一三〇八）正月～八月を所収する自筆原本で、日記と紙背文書があるがともに未翻刻であり、今回の影印が初公開となる。



◆具注暦の表裏に書かれた自筆原本

【第71冊】

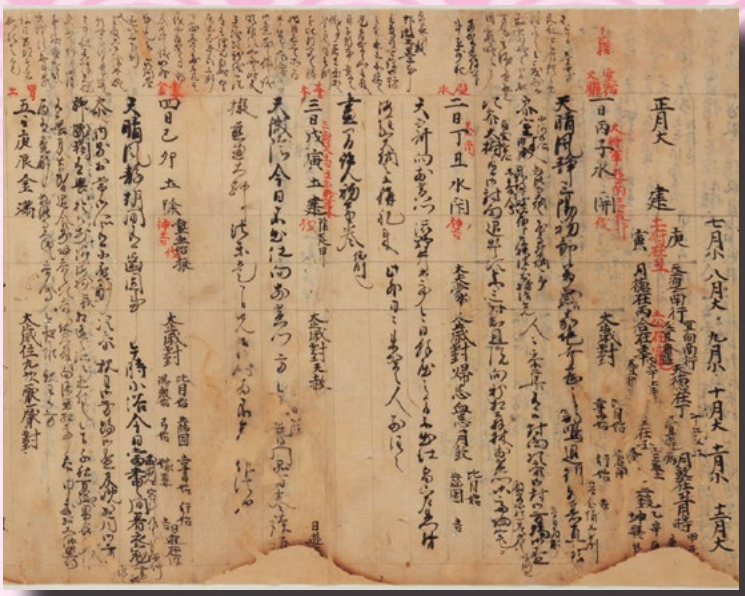
実隆公記

室町時代中期・一巻
〔所収〕文明十三年（一四八一）
〔解説〕末柄　豊（東京大学史料編纂所）

原本自筆

学者・歌人として当代第一人者だった内大臣三条西実隆（一四五五～一五三七）の日記。文明六年正月～天文五年（一四七四～一五三六）二月が現存する。応仁・文明の乱後の政治・社会情勢を知ることができ、文化史研究においても必須の史料である。

尊経閣本は文明十三年（一四八一）正月～七月を所収し、間明き三行の具注暦に書かれた自筆原本で、裏書きもある。同記原本のうち具注暦に記されたのは本巻のみで、貴重である。



◆記録類が少ない鎌倉時代後期の政治史を知る

【第72冊・第73冊】

外記日記 新抄

鎌倉時代後期（南北朝時代写）・五巻

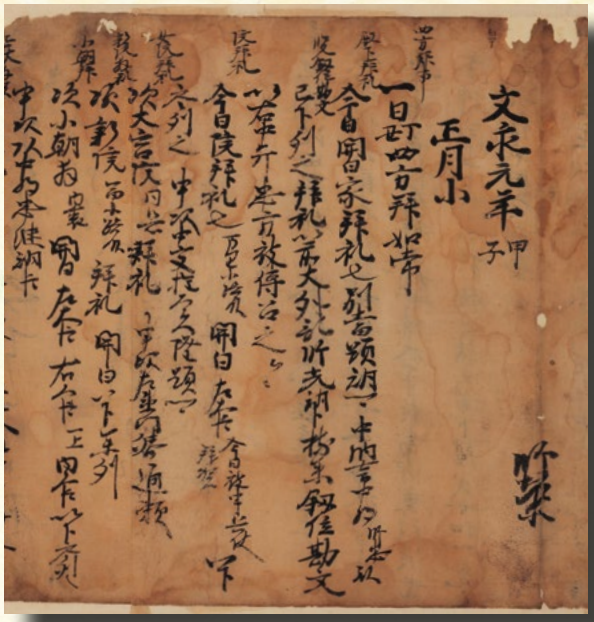
〔所収〕文永元年～四年（一二六四～六七）
弘安十年（一二八七）

〔解説〕遠藤珠紀（東京大学史料編纂所）

唯一の古写本

中原氏西大路流の中原師種（生没年未詳）による日記。十四世紀半ばに中原師栄によって書写された。文永元年～同四年（一二六四～六七）・弘安十年（一二八七）の五年分を所収する。記録類が少ない鎌倉時代後期において、政治史的に重要な記事を多く含み、貴重である。

尊経閣本は唯一の古写本であり、他の写本は尊経閣本の系統となる。『続史籍集覧』に「新抄」として翻刻されるが、国会図書館本が底本で、良質な写本の公開が望まれていた。紙背文書は『大日本史料』で一部翻刻されているが、今回の影印により全容が初めて公開される。



◆文書行政の実務に携わる外記が筆録

【第73冊】

享禄二年外記日記

室町時代後期・二巻

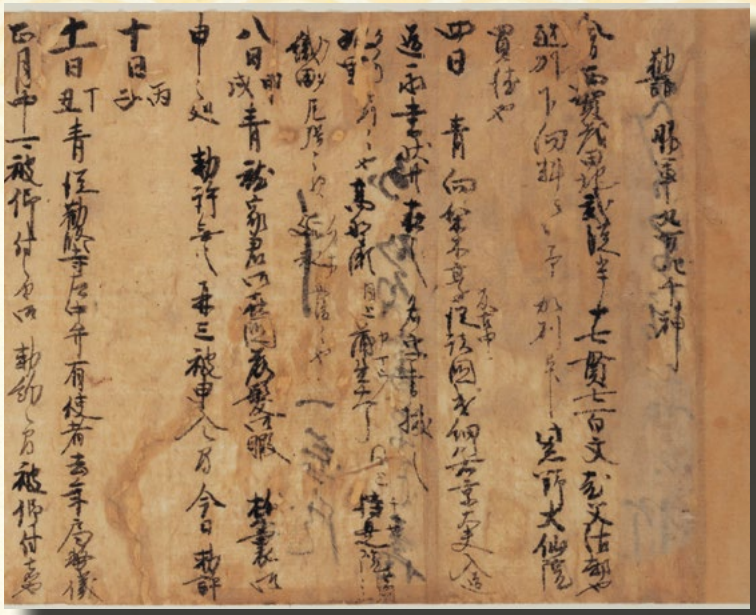
〔所収〕享禄二年（一五二九）

〔解説〕遠藤珠紀

自筆原本

室町時代後期に朝廷の事務官として活躍した外記、清原業賢（一四九九～一五六六）の日記。享禄二年（一五二九）分が現存する。文書行政の実務に携わる立場の人物が筆録した記録として価値が高い。

尊経閣本は自筆原本。これまで未翻刻であり、今回の影印により初めて公開される。



◆鎌倉幕府の評定衆で問注所の執事の公務日記

【第71冊】

建治三年記

鎌倉時代後期・一巻

〔所収〕建治三年（一二七七）

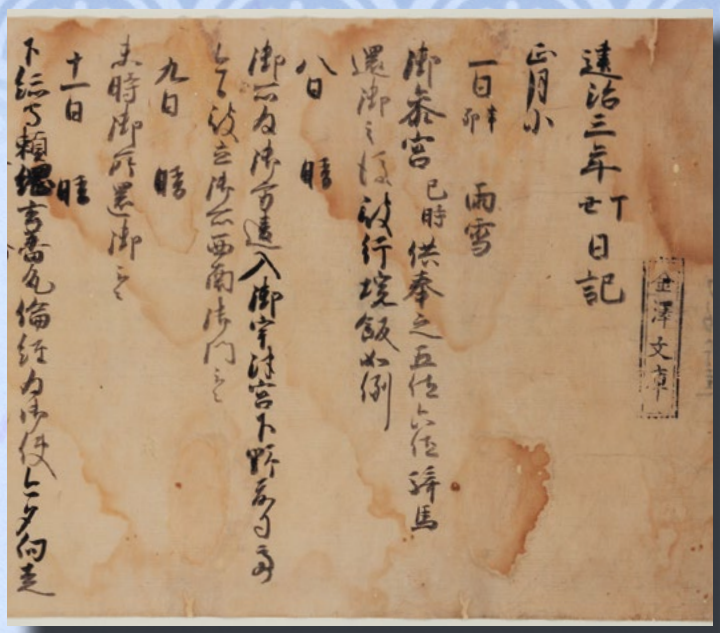
〔解説〕高橋典幸（東京大学大学院人文社会系研究科）

重文

自筆原本

鎌倉幕府の評定衆で、問注所の執事だった太田（三善）康有（一二二九～九〇）の公務日記。建治三年（一二七七）正月から十二月までの六十八日分の記事を抄出し幕府へ提出したものである。わずか六十八日だが、文永・弘安の役の中間にあたり、当時の緊迫した時局を反映する記事がみられるなど貴重である。

尊経閣本は康有自身が抄写した金沢文庫旧蔵本に属する唯一の自筆原本で、重要文化財に指定される。



◆応仁の乱前後の社会と寺院の様子を知る

【第74冊・第75冊】

碧山日録（へきざんにちろく）

室町時代中期（同中期写）・六冊

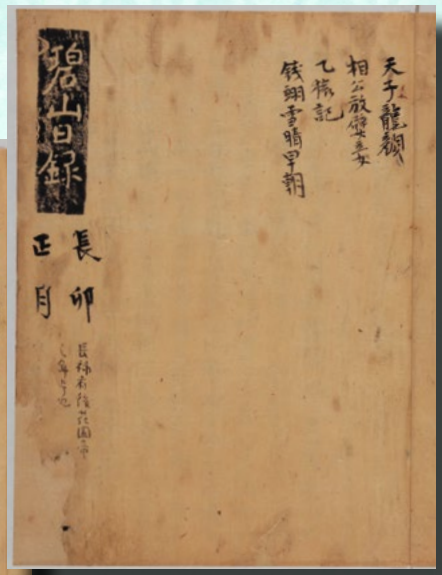
〔所収〕長禄三年～応仁二年（一四五九～六八）

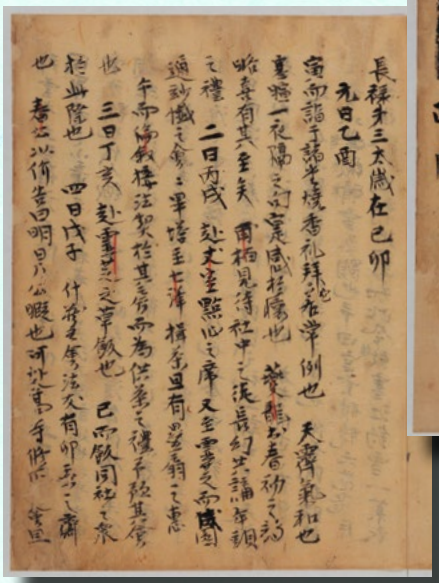
〔解説〕山家浩樹（東京大学史料編纂所）

唯一の古写本

室町時代中期の東福寺の禅僧、太極（一四二一～？）の日記。長禄三年正月～応仁二年（一四五九～六八）十二月が現存する。応仁の乱前後の社会と寺院の様子をうかがう貴重な史料である。

尊経閣本は現存する唯一の古写本で、大日本古記録『碧山日録』の底本である。





◆連歌師宗祇との交遊等、政治・社会・文化を知る

【第76冊】

蔗軒日録（しゃけんにちろく）

室町時代中期（慶長元和年間写）・三冊

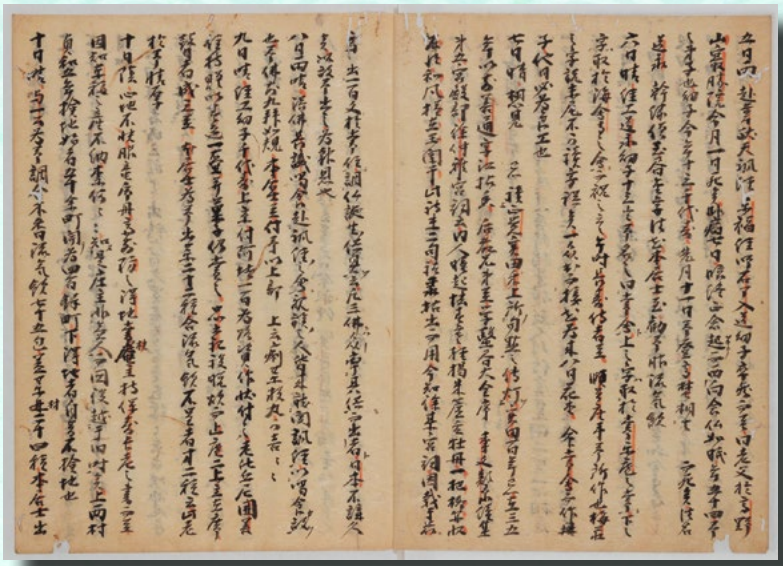
〔所収〕文明十六年～十八年（一四八四～八六）

〔解説〕川本慎自（東京大学史料編纂所）

唯一の古写本

室町時代中期の禅僧、季弘大叔（一四二一～八七）の日記。文明十六年～同十八年（一四八四～八六）が現存する。応仁・文明の乱当時の堺や遣明船に関する記述、連歌師宗祇との交遊など、政治・社会・文化を知る貴重な史料である。

尊経閣本は東福寺の剛外令柔（ごうがいれいじゅう）（？～一六二七）が書写した唯一の古写本で、大日本古記録『蔗軒日録』の底本である。



◆当時としては珍しい医者の自筆日記

【第76冊】

盲聾記（もうろうき）

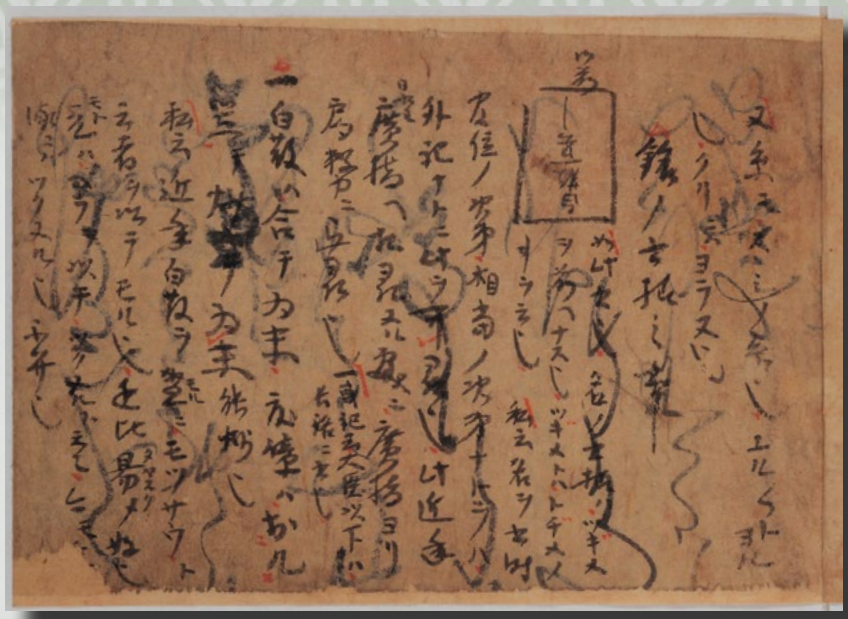
室町時代後期・一冊

〔所収〕永正十七年（一五二〇）

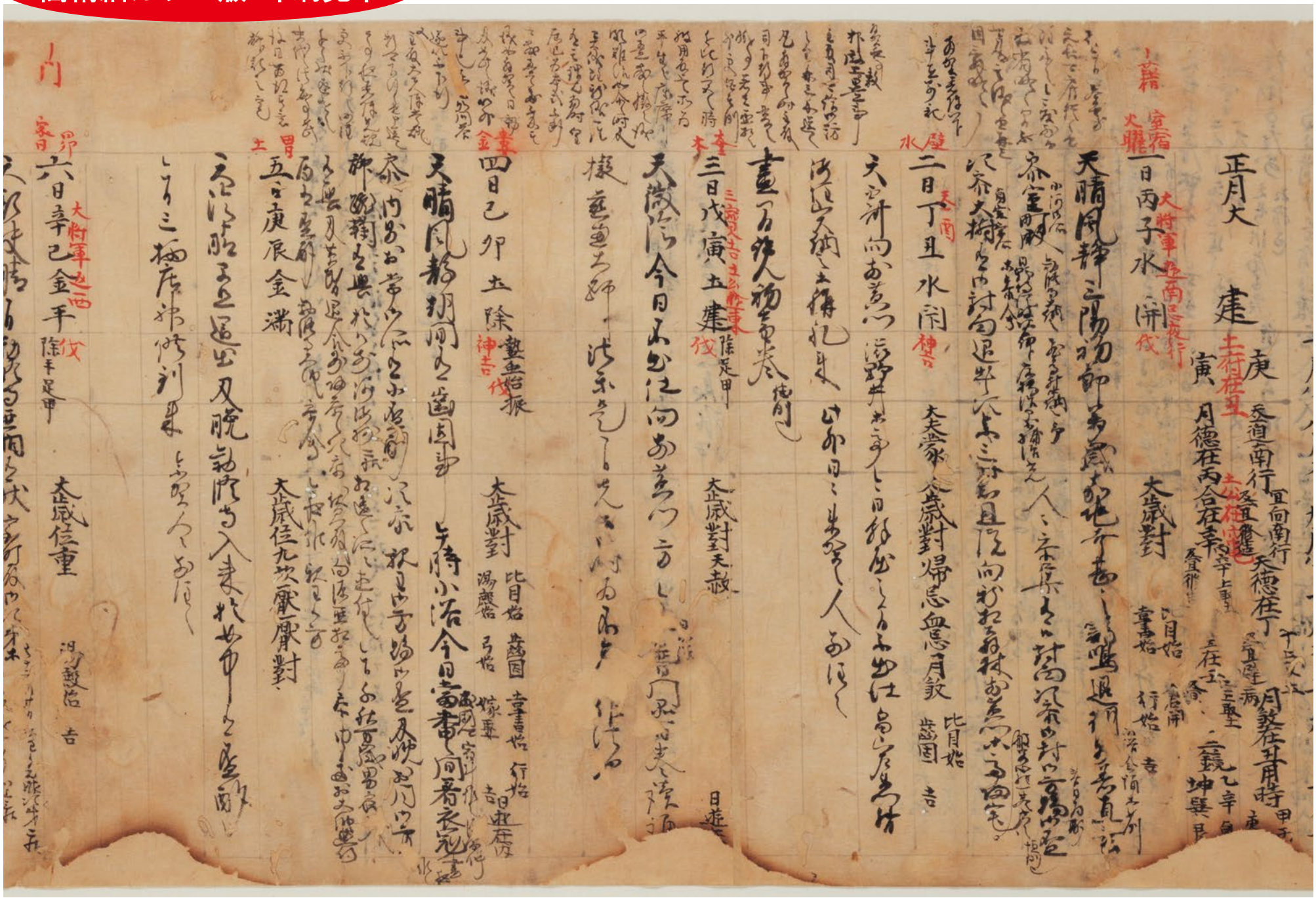
〔解説〕末柄　豊

自筆原本

室町時代後期の医師、丹波保長（たんばやすなが）（生没年未詳）の日記。永正十七年（一五二〇）正月～六月が現存する。細川高国と同澄元との抗争にかかわる記事が詳しい。また医者の日記は珍しく、調剤・診療など他の記録からうかがえない独特の内容も多く、極めて貴重である。

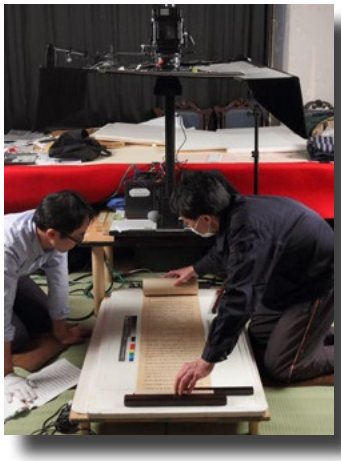


高精細カラー版　印刷見本　用紙・サイズ・色等、製品版と同様です



けんがくツアー

製作現場　八木書店の【高精細カラー版】ができるまで



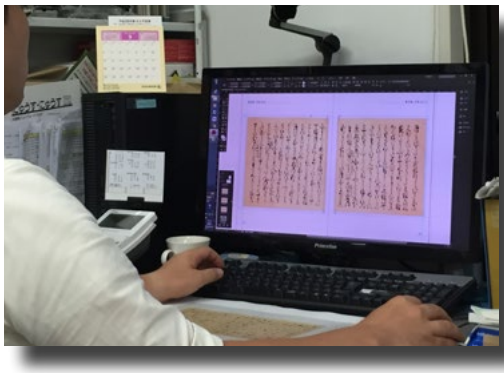
1）こだわりの原本撮影

影印版は写真原稿が命！

原稿となる写真が影印出版に適したものでないと、高精細カラー版は実現できません。では、影印出版に適した写真原稿とは？　カメラの精度とカメラマンの撮影技術が高いことはもちろんですが、影印仕様に特化した様々なポイントがあります。

①高透明度のガラス版を使用し、撮影原本の水平を維持
②左右にストロボ光源を配した二投光式で均一なライティング
③頁毎のトリミングなど実際の仕上がりを想定したカット割り

より高精度な影印出版の実現のために、八木書店では編集担当者の立ち会いのもと、影印出版に最適な原本の写真撮影を行います。



2）レイアウトだって気を抜きません

本を読みやすくするために、組版（レイアウト）は大切な作業です。八木書店では Adobe InDesign という組版ソフトを使い、影印本文のトリミング、柱・丁付・紙数等の割付を行い、印刷所へデータ入稿します。

影印本文各頁の柱には、書名・巻次・年月日等を掲出します。巻子本の場合は紙数を、冊子本の場合は丁付を本文下欄に表示します。その他、裏書がある場合は本文と相互対照できるよう頭注表示するなど、利用の便を図ります。トリミングには細心の注意を払い、巻子本の場合は両端行を前後頁で重複させて、原本の連続を確認できるようにします。

3）最新技術＆プロによる製版・印刷

影印出版に欠かせないのが「製版」の技術です。印刷を担当する奈良・天理時報社では、1971 年刊行開始の旧「天理図書館善本叢書」以来、数十年にわたり培ってきたノウハウをもとに製版します。現在、最新の製版システムであるイクオス・スーパーセル（260 線）を採用しています。

高精細カラー版で肝となるのが、原本との色合わせ。八木書店の影印版では、色校正は「本機校正」つまり実際の印刷機・印刷用紙で印刷した校正紙で点検し、原本との照合を数度行います。

印刷工程には編集担当者が立ち会い、最終調整で刷り出しを確認をしたうえで、実際の印刷を行います。印刷機は最新のハイブリッドＵＶシステムを採用。印刷してすぐにインクが乾くため色味の変化が少なく、色合わせの判断・調整が即時にできます。

4）職人技を駆使した製本

影印出版では、図書館・研究者など長年の連用に耐える本作りが欠かせません。そのために糸かがり、上製クロス装とし、堅牢にして日常の連用・長期保存に耐える製本とします。

製本は特殊製本を手がける東京・博勝堂が担当。Ａ４判などの大型判、横本など特殊な製本では、熟練の手作業が必要となります。

5）長い工程を経て完成です！　美しい版面を是非ご堪能ください

尊経閣善本影印集成

【高精細カラー版】

第九輯　鎌倉室町古記録　全十冊

完結！（分売可）
●A4判・上製クロス装・貼函入・平均二七〇頁、揃二、七〇四頁
●平均本体三六、二〇〇円＋税、揃本体三六二、〇〇〇円＋税
●ISBN978-4-8406-2299-8（セット）

【配本予定】＊3ヶ月毎配本／冊順と配本順は異なります

第1回配本〔二〇一九年五月〕ISBN978-4-8406-2367-4　本体三五、〇〇〇円

第67冊　**実躬卿記 一**【所収】弘安十年～正応四年（1287～91）

第3回配本〔二〇一九年十一月〕ISBN978-4-8406-2368-1　本体三六、〇〇〇円

第68冊　**実躬卿記 二**【所収】永仁元年～嘉元元年（1293～1303）

第5回配本〔二〇二〇年五月〕ISBN978-4-8406-2369-8　本体三六、〇〇〇円

第69冊　**実躬卿記 三**【所収】嘉元元・二年（1303・04）

第10回配本〔二〇二一年八月〕ISBN978-4-8406-2370-4　本体三七、〇〇〇円

第70冊　**実躬卿記 四**【所収】嘉元三年～徳治二年（1305～07）
宣陽門院御落飾記【所収】元久二年（1205）
後愚昧記 山門嗷訴記・実豊卿記【所収】応安元年・六年（1368・1373）

第7回配本〔二〇二〇年十一月〕ISBN978-4-8406-2371-1　本体三五、〇〇〇円

第71冊　**公秀公記**【所収】徳治三年（1308）
実隆公記【所収】文明十三年（1481）
建治三年記【所収】建治三年（1277）

第2回配本〔二〇一九年八月〕ISBN978-4-8406-2372-8　本体三七、〇〇〇円

第72冊　**外記日記 新抄 一**【所収】文永元年～三年（1264～66）

第6回配本〔二〇二〇年八月〕ISBN978-4-8406-2373-5　本体三七、〇〇〇円

第73冊　**外記日記 新抄 二**【所収】文永四年・弘安十年（12867・87）
享禄二年外記日記【所収】享禄二年（1529）

第4回配本〔二〇二〇年二月〕ISBN9978-4-8406-2374-2　本体三六、〇〇〇円

第74冊　**碧山日録 一**【所収】長禄三年～寛正二年（1459～61）

第8回配本〔二〇二一年二月〕ISBN978-4-8406-2375-9　本体三六、〇〇〇円

第75冊　**碧山日録 二**【所収】寛正三年～応仁二年（1462～68）

第9回配本〔二〇二一年五月〕ISBN978-4-8406-2376-6　本体三七、〇〇〇円

第76冊　**蔗軒日録**【所収】文明十六年～十八年（1484～86）
盲聾記【所収】永正十七年（1520）

SONKEIKAKU ZENPON EIINSHUSEI KAMAKURA MUROMACHI KOKIROKU
A Facsimile series of important classics in the Sonkeikakubunko. The books written in the 13-16th century KAMAKURA and MUROMACHI Authorities diary.

好評シリーズ既刊

すべて分売承ります！
（白抜は品切）

第１輯　儀　式　書　全12冊　【セット品切れ】ISBN4-8406-2291-4
①～⑥西宮記（❹のみ品切）／⑦～⑨北山抄／⑩～⑫江次第

第２輯　類　　書　全５冊　【定価（本体 125,000 円＋税）】ISBN4-8406-2292-2
⑬秘府略／⑭～⑯二中歴・掌中歴／⑰拾芥抄

第３輯　古　辞　書　全８冊　【定価（本体 228,000 円＋税）＊在庫極少】ISBN4-8406-2293-0
⑱⑲色葉字類抄／⑳節用集／㉑～㉔字鏡集／㉕温故知新書・童蒙頌韻

第４輯　古代史籍　全９冊　【定価（本体 260,000 円＋税）】ISBN4-8406-2294-9
㉖日本書紀／㉗～㉙釈日本紀／㉚古事記／㉛古語拾遺／㉜～㉞類聚国史

第５輯　古代法制史料　全５冊　【定価（本体 149,000 円＋税）】ISBN4-8406-2295-7
㉟交替式・法曹類林／㊱政事要略／㊲～㊴類聚三代格

第６輯　古代説話　全６冊　【定価（本体 138,000 円＋税）】ISBN978-4-8406-2296-7
㊵日本霊異記／㊶三宝絵・日本往生極楽記／㊷新猿楽記／㊸三宝感応要略録／㊹江談抄／㊺中外抄

第７輯　平安鎌倉儀式書　全10冊　【定価（本体 234,000 円＋税）】ISBN978-4-8406-2297-4
㊻内裏式／㊼本朝月令要文・小野宮故実旧例・年中行事秘抄／㊽雲図鈔／㊾無題号記録（『院御書』）・春玉秘抄
㊿春除目抄・京官除目次第・県召除目記／(51)禁秘御抄／(52)局中宝／(53)夕拝備急至要抄・参議要抄
(54)羽林要秘抄・上卿簡要抄／(55)消息礼事及書礼事・大臣二人為尊者儀・大要抄・大内抄・暇服事

第８輯　平安古記録　全11冊　【定価（本体 358,000 円＋税）】ISBN978-4-8406-2298-1
(56)～(64)小右記／(65)水左記／(66)台記〔宇槐記抄・宇槐雑抄・台記抄〕

最新の在庫状況は上記 QR コードより小社サイトにてご確認ください。

発　行
八木書店
Yagi Bookstore Ltd.Publishing Dept.
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町 3-8
● Tel：03-3291-2961［営業］03-3291-2969［編集］● Fax：03-3291-6300
● E-mail：pub@books-yagi.co.jp ● https://catalogue.books-yagi.co.jp/

取扱店

202110 web